

先進事例 紹介

八消MTB隊発足！

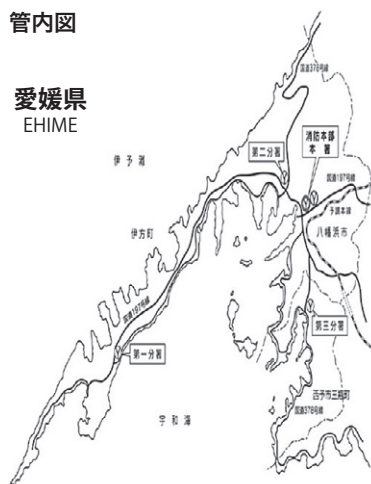
愛媛県 八幡浜地区施設事務組合

1 はじめに

当地域は、四国の最西端に位置し、北は瀬戸内海の伊予灘に山が海岸まで隣接し、西は宇和海に面し、リアス式海岸特有の入江が多く、日本一細長い佐田岬半島が延々約52kmにわたり豊後水道に向けて延びており、温暖で風光

管内図

愛媛県
EHIME



明媚な地域です。また、これらの地域のほとんどが山間地帯であり、平坦部は八幡浜市・西予市三瓶町にわずかに開け、市街地を形成していますが、その他の地域は山すそと海岸のわずかな平坦部に集落が点在しています。当消防本部のある八幡浜市は四国の西の玄関、



庁舎全景

佐田岬半島のつけ根に位置し、九州へ向けた四国側の玄関口として、また、九州東部と京阪神を結ぶ実質的な第二の国土軸のハブ港として、大切な役割を果たしています。この地区の主な産業は農業と漁業の一次産業であり、急傾斜地を利用した柑橘栽培が盛んで、3つの太陽（直接降り注ぐ太陽光、宇和海に反射した太陽光、段々畑の石段に反射した太陽光）に育まれた「みかん」のおいしさは格別で

す。また、漁業基地港としても西日本屈指の港として有名で、平成25年4月にはこれからの時代に対応した高度衛生管理型の新しい魚市場が完成し、道の駅みたとオアシス「八幡浜みなと」のオープンとともにこの地区の新しい名所となっています。

八幡浜地区施設事務組合は、昭和59年4月1日、中核にあたる八幡浜市と西宇和郡5町（保内町・伊方町・瀬戸町・三崎町・三瓶町）による組合消防として発足しました。平成16年4月1日、市町村合併に伴い三瓶町が東宇和郡4町と合併し「西予市」となりましたが、旧三瓶町の区域については、引き続き当組合が事務を共同処理することになりました。さらに平成17年3月28日、八幡浜市と保内町が合併し「八幡浜市」、同年4月1日、伊方町・瀬戸町・三崎町が合併し「伊方町」となり、現在2市1町で事務を共同処理しています。

2 MTB導入に至った経緯

八幡浜市には、JCF（日本自転車競技連盟）公認のマウンテンバイクコースがあり、毎年5月には、「J八幡浜インターナショナルクロスカントリー」が開催されています。2008年と2012年には、オリンピック日本代表選考会を兼ねて開催されました。特別な期間以外は、一般に開放されており、老若男女問わず気軽に誰でも試走することができます。この大会に協賛及び参加いただいている「スペシャライズド・ジャパン」社から、





訓練風景

サイクリススポーツによる地域振興のために八幡浜地域に貢献したいとのことで、選考会をはじめとする各種MTB大会で救護協力を行っている当消防本部にMTB 6台とヘルメットの寄贈に至ったものです。

3 MTB隊の発隊について

当消防本部では、南海トラフ地震等の大規模災害発生時における防災力の向上を主な目的として、平成22年3月29日「災害時消防活動二輪車（赤バイ）隊」を発隊し、二輪車5台の機動力を生かして火災や救急支援・山火事防止広報・防火パレード・行方不明者捜索等に出勤しており、威力を発揮しています。地震災害をはじめ大規模災害時において、MTBの小型軽量である特性を生かし、赤バイが進入できない狭路でも活動ができ、万が一燃料の供給が止まった場合でも運行可能なMTB隊を組織（平成26年10月1日運用開始）しました。MTBと赤バイが連携して災害対応することにより、初動体制に今まで以上の力を発揮することが期待されます。



訓練風景

4 おわりに

今回の発隊により、地域の新聞・テレビ等メディアにも紹介されて八消MTB隊のことを地域の方に広く知ってもらえました。これからもこの地域住民の安心・安全を守るために、MTBの機動力を最大限に発揮して多種多様化した災害に備えて訓練に精進し、新しい隊員の養成を図り充実した隊にしていきたいと思ひます。



MTB受領式・発隊式